

パーソナリティ心理学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野、教養教育センター		
担当教員	藤澤 美穂 准教授、中島 淳子 非常勤講師		
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 20 時間
期間	後期		

・学修方針（講義概要等）

「パーソナリティ personality」は、日本語では「人格」と訳され、その人の“人となり”のことを意味する。心理学において「パーソナリティ」は重要な概念のひとつであり、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、そして精神医学においても中心的な概念として機能している。

本科目では、心理学におけるパーソナリティの概念を整理し、パーソナリティ理解のために有用な心理学の諸理論を取り上げる。またパーソナリティの発達について、家族や社会との関係の影響を含め考える。

本科目の学修を通じ、個々人の個性を理解し、「自分らしさ」「その人らしさ」を尊重できる態度を身につけることを目指す。

これらの修得のために、双方向的な対話やワークを取り入れ、自分の考えを伝え相手の考えを大事に聞く機会を設け、互いにフィードバックすることを通し、他者尊重的な態度の強化を図る。

・教育成果（アウトカム）

1. パーソナリティ理解のための諸理論を説明できる。
 2. パーソナリティ理解を歪める心理的要因について、説明できる。
 3. パーソナリティの発達について、精神分析の理論やライフサイクル論をもとに、その形成過程を理解し、説明することができる。
 4. 心理検査技法の特徴を学び、パーソナリティのアセスメントについての概要を説明できる。
 5. 上記により人間のこころと行動の多様性についての理解を深め、パーソナリティの個人差と個性を尊重する態度を会得できる。
- （ディプロマポリシー：1,2,3,4,5,8,9）

・到達目標（SBO）

1. 類型論と特性論について理解し、特徴を述べることができる。
2. パーソナリティの発達について、ライフサイクル論の観点と、家族の関わりからの観点から説明できる。
3. 青年期におけるアイデンティティ確立の心理発達課題について、説明できる。
4. パーソナリティを理解するために用いられる心理アセスメント技法について学び、それらの方法論の特徴と限界について説明することができる。
5. パーソナリティの偏りについて理解し、説明することができる。
6. 健康なパーソナリティとはどういうことか、説明できる。
7. 「自分らしさ」「その人らしさ」を理解し、尊重できる。

・ 講義日程

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容/到達目標
9/4	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#1 イントロダクション：パーソナリティとは【双方向授業】 【ICT(Mentimeter, WebClass)】 1.我々の普段のパーソナリティ理解の仕方をふりかえり、述べることができる。 2.パーソナリティを理解する際に生じる歪みについて、説明できる。 3.血液型と性格の関連について、科学的知見を述べることができる。 4.血液型性格判断に作用する認知の錯覚現象について、説明できる。 事前学修：血液型と性格の関連について記載されている記事をインターネットで調べる。スタナビの「ビブリオバトル」の箇所を読む。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を読み復習する。 [C-1-2-3]
9/11	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#2 人格 personality と性格 character、類型論と特性論【双方向授業】 【ICT(WebClass)】 1.人格と性格の定義の違いについて、説明できる。 2.気質について、説明できる。 3.類型論の特徴について、説明できる。 4.特性論の特徴について、説明できる。 5.Big Five について、説明できる。 事前学修：人格・性格の定義について、文献やインターネット等で調べる。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。

9/18	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#3 パーソナリティの発達（１）、自分らしいプレゼンテーションとは（１）【双方向授業】【ICT(Mentimeter, WebClass)】 1.精神分析の構造論における自我について、説明できる。 2.精神分析の発達理論について、説明できる。 3.乳幼児の認知発達について、説明できる。 4.与えられた課題について、プレゼンテーション資料を作成することができる。 事前学修：子どもの心理面の発達について、文献を調べ、ポイントを列挙する。 事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。 [C-2-1]
9/25	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#4 自分らしいプレゼンテーションとは（２）、パーソナリティの発達（２）【双方向授業、グループワーク】 【ICT(Mentimeter, WebClass)】 1.プレゼンテーションに対し、改善点を指摘することができる。 2.自身のプレゼンテーションに表れる自分らしさについてふりかえり、述べることができる。 3.Erikson,E.H.のライフサイクル論の８つの発達段階と、各発達段階における発達課題と心理社会的危機について、説明できる。 事前学修：ライフサイクル論についてエリクソン以外の提唱者から一人選び、その論の特徴を列挙する。 事後学修：プレゼンテーションに関するふりかえりワークに取り組む。WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。 [C-2-6, D-2-1-1-3]

10/2	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#5 健康なパーソナリティと、パーソナリティの偏りについて考える【双方向授業】【ICT(Mentimeter, WebClass)】 1.個人と環境の相互作用のもとで確立するパーソナリティの「健康さ」について、これまでに示されている知見に基づき、要点を述べることができる。 2.パーソナリティの偏りについて、平均基準と価値基準の観点から説明できる。 3.パーソナリティ障害の特徴について、述べることができる。 事前学修：パーソナリティに影響を及ぼすと考えられる出来事や社会状況について、インターネットで調べる。 事後学修：講義資料を復習する。 形成的評価：WebClass による「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [D-5-8-1]
10/23	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#6 ビブリオバトル クラスマッチ【グループワーク】【プレゼンテーション】 1.自分の選んだ本について、その魅力をプレゼンテーションすることができる。 2.その本をより深く理解するための質問をすることができる。 3.発表、質疑応答、ジャッジに積極的に参加することを通し、今後の自身の発表への改善点を挙げるすることができる。 事前学修：My Biblio を選び、期日までにコンテンツシートとシナリオシートを作成し、提出する。スタナビの「ビブリオバトル」の箇所を読む。 事後学修：今回のプレゼンテーションに関する改善点をふりかえり、WebClass からの小課題に回答する。 [C-2-4, C-2-6]
10/30	木	2	教養教育センター 心理学・行動科学分野	中島 淳子 非常勤講師 藤澤 美穂 准教授	#7 子どもの発達と家族のかかわり 1.子どもの社会性発達を理解し、子どもの発達における愛着の重要性について、述べることができる。 2.子どもとその家族への関わりが必要であることを理解し、多職種連携での支援の重要性について、説明できる。 事前学修：子どもの社会性発達について調べる。 事後学修：WebClass での小課題に取り組み、結果のフィードバックを受ける。 [D-5-8-1, E-2-1-1-5]

11/6	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#8 パーソナリティの理解：心理アセスメント【心理検査受検・スコアリング演習】 1.アセスメントにあたって用いられる心理検査について、特に質問紙法の概要を述べることができる。 2.心理検査への自身の回答をスコアリングし、解釈することができる。 事前学修：類型論と特性論について復習する。 事後学修：WebClass での小課題に取り組み、結果のフィードバックを受ける。心理検査によるアセスメントについて、復習する。 [D-5-9-4, E-2-1-1-7]
11/13	木	2	心理学・ 行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#9 ビブリオバトル ファイルナルマッチ【プレゼンテーション】 1. ビブリオバトルを行うことで、幅広い書籍情報を共有できる。 2.読みたい作品、ジャンル、作家、テーマ等について明示できる。 3.発表、質疑応答、ジャッジに積極的に参加することを通し、今後の自身の発表への改善点を挙げるすることができる。 事前学修：スタナビの「ビブリオバトル」の箇所を読む。 事後学修：今後の自身のプレゼンテーションに活かせることをまとめる。

11/20	木	2	心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#10 自分らしさ、その人らしさの尊重のために【双方向授業】【グループワーク】【ICT(Mentimeter, WebClass)】 1. パーソナリティをめぐる近年のトピックに関する学術的背景を理解した上で、情報との向き合い方についての自らの考えを述べることができる。 2. 自分らしさを大事にしながら相手を尊重するとはどういうことか、自分なりの考えを述べるができる。 事前学修： パーソナリティをめぐる近年のトピックをインターネットで調べ、要点をまとめ、持参する。 事後学修： ふりかえりワークに取り組む。WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。講義資料を復習する。 [PR-05, D-2-1-2-3]
-------	---	---	------------	-----------	---

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	改訂新版 人格心理学	大山泰宏	放送大学教育振興会	2015
参	はじめて学ぶパーソナリティ心理学 —個性をめぐる冒険—	小塩真司	ミネルヴァ書房	2010

・成績評価方法

総括評価：ふりかえりワーク（4、10 回目）と小課題（6、7、8 回目）の取り組み内容を 30%、期末課題の評価を 30%、確認テスト（5 回実施）の成績を 20%、ビブリオバトルに関連する取り組みを 20% として評価する。ふりかえりワーク・小課題・期末課題への取り組みは、提出（入力）された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「課題評価基準」に従い採点する。確認テストは MCQ：多肢選択式問題を WebClass から出題する。ビブリオバトルへの取り組みはコンテンツシート・シナリオシートの内容、クラスマッチでのピア評価の内容および質疑応答への態度を対象とし評価する。

形成的評価：5 回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。

事前学修：講義内容の確認をした上で、関連する事項をインターネットや図書館で検索し、問題点を抽出しておくこと。最低 40 分間以上を要する。

事後学修；講義資料を確認し、講義内容をふりかえり、自分なりにまとめておく。興味をもった箇所やわからなかった箇所を図書館の文献などで調べる。最低 50 分間以上を要する。

期末課題作成のため 10 時間程度の時間を確保する必要がある。

期末課題の締切は 12 月 21 日とするが、履修生との相談によって変更する場合がある。変更の場合は講義最終回で期日を告知する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

WebClass での確認テストを実施する回を設定する。結果は WebClass にてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PC のいずれでも参加可能である。

期末課題評価後に講評・解説等を WebClass にておこなう。

【その他】

- ・一部「医療と法律」「医療と物語」「人間関係論」と横断的にビブリオバトルをおこなう。
- ・提出を求める課題内容については WebClass 上に詳細に提示する。
- ・学生からの授業に対する質問・意見については、WebClass メッセージより随時受け付ける。
- ・授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。
- ・ワークや確認テストの期日は、講義当日中を基本とする。小課題の期日は講義後 1 週間程度とするが、履修生との相談によって変更する場合がある。その場合は講義中もしくは WebClass から期日を告知する。
- ・ビブリオバトルについては、コンテンツシート・シナリオシートの提出を求める。ビブリオバトルではグループでのプレゼンテーションを予定しているが、感染予防対策を徹底し、状況に応じて方法を適宜変更することがある。
- ・期末課題の締切は 12 月 21 日とするが、履修生との相談によって変更する場合がある。変更の場合は講義最終回で期日を告知する。
- ・成績開示方法：成績確定後、希望者には結果開示と講評をおこなう。

当該科目に関連する実務経験の有無 有：保健・医療・福祉・学校臨床現場での実務経験をもつ臨床心理士有資格教員が、パーソナリティの発達ならびにアセスメントについて、実践例に基づきながら講義をおこなう回が含まれる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD(BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成